

著者	タイトル	発行者	発行年	備考	市史所蔵
<b>■3 経済と産業</b>					
<b>◆3-1経済</b>					
横浜市立大学経済研究所	『戦後横浜経済十年史』	横浜市立大学経済研究所	1957	「今こそ戦後である」の横浜経済観に基いて、今後の指針とすべく編纂。研究所で行った横浜研究をベースに、農業・工業・商業・貿易・社会・社会保障・学校教育・社会教育・公営企業の各分野の10年史概観。横浜政治経済日誌(1945～50年)、横浜文献リストを収録。	○
横浜市立大学経済研究所	『戦後横浜経済十年史』続編	横浜市立大学経済研究所	1958	1957年刊の続編。財政・金融・貿易・公益事業・労働、および横浜経済日誌(1951～56年)を収録。	○
横浜市立大学経済研究所	『経済と貿易』73・74号「最近の横浜経済研究所」	横浜市立大学経済研究所	1959	戦後横浜経済十年史を受けて、景気後退期の1957上～58年上期がいかに変化したのか、日本の経済の転換期にあたっての横浜経済の変化を記述する。	○
横浜市立大学経済研究所	『経済と貿易』84号「横浜の経済と社会」	横浜市立大学経済研究所	1964	高度経済成長における横浜経済への影響、地域内格差や公害問題などの歪み、犯罪などの社会病理、政治意識などについて明らかにする。	○
横浜市立大学経済研究所	『経済と貿易』100号記念号「産業構造の変動と都市問題—横浜の経済と社会・1970年—」	横浜市立大学経済研究所	1970	横浜の経済を人口、交通、港湾などの視点から捉えた論文集。論文17本。	○
横浜市立大学経済研究所	『経済と貿易』137号「横浜の経済構造と都市問題 —横浜の経済と社会・1978年—」	横浜市立大学経済研究所	1978	主に昭和40年代から50年代初期にかけて、横浜経済の構造を人口・所得・商工業・財政などで見るとともに、都市問題について、衛生・福祉・公害・政治行動などや、広域行政論や専用使用権論などについても記述する。	○
横浜商工会議所百年史編集室	『横浜経済物語』	神奈川新聞社	1980	開港からの横浜の経済情勢がまとめられている。高度成長期のショッピング街の再開発など。	○
小堀聡	『日本のエネルギー革命』	名古屋大学出版会	2010	第8章「臨海開発とエネルギー革命」において、根岸湾埋立の過程や、同埋立地における東電・電発の火力発電所問題の記述する。	○
<b>◆3-2商業</b>					
松竹株式会社調査室	『横浜に於ける盛り場の研究 劇場立地条件調査』	松竹調査室	1956	横浜の代表的な「盛り場」である伊勢佐木町・野毛を中心に、戦後復興の途上にある商店街・映画館の実態を、数量的に明らかにした調査報告。	○
横浜市商店街協同組合連合会	『十年のあゆみ』		1962	1952年連合会ができてから10年間の簡単な年表や、役員推移、1962年の各商店街の概要・名簿など。	○(コピー)
横浜市総務局行政部統計課	『横浜市の商業』	(横浜市)	1964～	国の商業統計の横浜市分をまとめたもの。1964年から3年ごとに作成。概要記述あり。	○
神奈川県花き業界沿革史編纂委員会	『神奈川県花き業界沿革史』	神奈川県生花商組合連	1967	生花商団体の沿革史。県内各地域の古老の座談会を主に、戦後の市場などにも触れる。	○
松屋	『松屋百年史』	松屋	1969	伊勢佐木町にあった百貨店。1953年前面接收解除後、昭和30年代に増床している。1978年撤退。	○
横浜商工会議所	『横浜商工会議所百年史』	横浜商工会議所	1981	創設から1980年の百周年までの歴史。復興期では接收解除運動や商調協を中心とした大型店問題など、高度経済成長期では、成長に伴う歪みである公害問題や都市基盤整備などに関する活動が記されている。また、末尾には、歴代議員の一覧などの他に、刊行物一覧や請願等の一覧を掲載する。	○
榑原博行・金井久・神奈川サンケイ新聞社	『ヨコハマ再開発物語』	日本工業新聞社	1982	昭和20年代末の相鉄による横浜駅西口の開発から、その後の東口開発について述べたもの。	○
神奈川経済研究所	『図説神奈川県商業の戦後の推移と特徴』上、中、下	神奈川経済研究所	1988	各種商業統計を使って、戦後の神奈川県商業(小売・卸売・飲食店)の推移を記述する。	○
相鉄ローゼン	『相鉄ローゼン25年のあゆみ』	相鉄ローゼン	1987	相鉄系のスーパーマーケットなどを経営。1963年、三ツ境に最初のスーパーを開業した。	○
東急ストア	『東急ストアのあゆみ』	東急ストア	1989	東急系のスーパーマーケットなどを経営する。1964年に横浜駅西口ダイヤモンド地下街に出店するなど、市内二複数店舗を持つ。	○
岡田屋百年史編集部	『岡田屋創業者と百年の歩み』	株式会社横浜岡田屋	1990	川崎市発祥の百貨店。1968年横浜駅西口に横浜岡田屋を出店。横浜市建築局のすすめにより、隣り合う横浜銀行のビルと建築協定によって外観を揃えている。	○
<b>◆3-3商店街</b>					

大口通商店街協同組合	『25年の歩み』	大口通商店街協同組合	1974	神奈川区大口通商店街の協同組合が出来てから1974年までの歴史。	○
25周年記念誌編集委員会	『西銀会 二十五年のあゆみ』	西前銀座商店街協同組合	1975	西区の西前銀座商店街の1950年協同組合発起人会から、1974年までの年表、定款、名簿など。1974年完成のアーケードについては、設置までの概要や図が載せられている。	○
協同組合元町エスエス会	『30年の歩み 創立30周年記念』		1981	中区元町で協同組合を結成した1950年度から1980年度まで、年表風に記述する。昭和30年代からのセットバックの経過、チャージングセールなど各種セールや、自動車時代に合わせた立体駐車場などの事業があった。	○
藤棚銀座商店街協同組合	『藤棚銀座三十年誌』	藤棚銀座商店街協同組合事務局	1982	西区藤棚銀座商店街の協同組合が出来てから30年記念して商店街の歴史を記述したもの。	○
	『十年のあゆみ 創立10周年記念 1962』	横浜市商店街協同組合連合会	1988	1952年連合会が出来てから10年間の簡単な年表や、役員の推移、1962年の各商店街の概要・名簿など。	○
中山商協50年史編集委員会	『百合は大輪に』	中山商店街協同組合	1997	緑区中山商店街の歴史。土地区画整理などに特徴がある。	○
神奈川新聞社	『元町の奇跡』	協同組合元町エスエス会	1997	中区元町商店街の50周年を機にした神奈川新聞の連載をまとめたもの。現状・歴史・各店・課題・座談会による。各店編では、ものづくりをしている商店に特徴がある。	○
杉田商店街創立50周年記念事業実行委員会	『杉田商店街五十年史』	杉田商店街	1998	磯子区杉田商店街の歴史を書いたもの。	○
杉田十日会商店街編集委員会	『五十年史 杉田十日会商店街』	杉田十日会商店街	1999	磯子区杉田十日会商店街の歴史を書いたもの。	○
岡幸男	『横浜西口開発物語 一今日の繁栄を築いた人たち』	イーグレープ	2007	相鉄で西口開発を行った担当者の手記。既出のことが多いが、いくつかの裏話もある。	○
伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合・「イセザキ歴史書をつくる会」	『OLD but NEW ～イセザキの未来につなぐ散歩道～』	神奈川新聞社	2009	中区の伊勢佐木町商店街について幕末期から歴史を辿る。戦後は接收からの復興のち、新興の横浜駅西口に対抗し、再開発・モール化や「歩行者天国」などが行われたことを記す。	○
◆3-4市場					
田口章太・横浜市中央卸売市場	『横浜市中央卸売市場三十年史』	横浜市中央卸売市場三十年史刊行会	1961	横浜市中央卸売市場の通史。昭和30年代は当時の現状なので羅列的。	○
食肉市場開設10周年記念行事実行委員会	『横浜の食肉史』		1969	横浜市中央卸売市場食肉市場が設置されてから10周年を記念して刊行されたもの。開港から1959年食肉市場設置までの歴史を記述する。昭和20年代からの設置過程は、『よこはま食肉120年』よりも、若干、詳しい。	○
卸売市場制度五十年史編さん委員会	『卸売市場制度五十年史』第一巻～第三巻	食品需給研究センター	1979	中央卸売市場制度の通史。各都市の例が挙げられており、横浜市の30年史以降についての記述がある。他に資料編などあり。	○
食肉市場開設20周年記念誌編集委員会	『よこはま食肉120年』	横浜市中央卸売市場食肉市場	1979	横浜の屠場・食肉市場の歴史。主に1959年に食肉市場ができるまでの記述。食肉業界の人物伝あり。	○
南部市場水産仲卸協同組合	『組合10年のあゆみ』	横浜市卸売市場南部市場水産仲卸協同組合	1984	1973年に開設された南部市場の水産仲卸の組合史。写真が主で、年表や組合員紹介など。	×(横浜市立中央図書館あり)
『横浜の屠畜場の変遷』編集委員会	『横浜の屠畜場の変遷 一食肉処理業務に対する差別と偏見の克服に向けて一』	横浜市中央卸売市場食肉市場	1985	横浜の屠場・食肉市場の歴史を記述、	○
◆3-5港湾・埋立					
『横浜港二十年の歩み』刊行委員会	『横浜港二十年の歩み 1951-1971 港湾管理二十周年記念』	横浜市	1973	1950年の港湾法制定以来、横浜市が港湾管理者となって20年間の歴史をまとめたもの。全体の半分以上の頁を港湾関係団体164社の紹介に充てている。	○
神奈川県立川崎図書館	『京浜工業地帯文献目録 増補版』	神奈川県立川崎図書館	1974	戦前から1973年6月末までに刊行された文献のうち、京浜工業地帯の産業・経済に関するものを中心に収録。	○
山田操	『京浜都市問題史』	恒星社厚生閣	1974	「第四章 ダム建設と京浜工業地帯」で、戦後の相模川総合開発でのダム建設にともなう村落水没問題を、京浜工業地帯形成史の一環として取り上げる。	○
横浜港振興協会横浜港史刊行委員会	『横浜港史』総論編、各論編、資料編	横浜市港湾局企画課	1989	市政100周年・開港130周年記念の刊行。開港から130年の港湾整備を通時的に記した総論編と、港湾機能を個別に記した各論編、資料編の三部からなる。	○

横浜市港湾局臨海開発部	『横浜の埋立』	横浜市港湾局臨海開発部	1993	戦後の埋立てによる臨海工業地帯形成についての概説と、「幕末からの詳細な「横浜の埋立」年表と時代別埋立変遷図」からなる。	○
横浜市磯子図書館	『昭和30年代からの磯子・根岸の埋立と開発関連文献リスト』	横浜市磯子図書館	1999	市立図書館所蔵の文献を埋立、宅地開発・造成、歴史、根岸線、経済・産業、環境、行政、教育、地図に分類して目録化したもの。関係の新聞記事目録もまとめられている。	×(横浜市立中央図書館あり)
運輸省第二港湾建設局京浜港湾工事事務所	『港のあゆみ』	運輸省第二港湾建設局京浜港湾工事事務所	2000	幕末から平成までの港湾整備の変遷を、カラーグラフィック中心に年表形式で紹介したもの。横浜港・川崎港・横須賀港の三つの港を取り上げる。	×(横浜市立中央図書館あり)
運輸省第二港湾建設局京浜港湾工事事務所	『直轄事業100年のあゆみ』	運輸省第二港湾建設局京浜港湾工事事務所	2000	1900年の横浜港第一期海面埋立工事にはじまる国の直営工事100年の歴史を、横浜港・川崎港・横須賀港の三つの港について概説。工事図面がかなりのボリュームを占める。	×(横浜市立中央図書館あり)
高恵弘	『根岸湾の埋立て』	新生出版	2008	根岸湾・金沢地先などの埋立事業に横浜市職員として従事した著者が、1870年から1989年までの35の埋立てについて関係資料を収録したものの。	×(横浜市立中央図書館あり)
根岸湾埋立事業史編集委員会	『根岸湾埋立事業史』	根岸湾埋立事業史編集委員会	2012	根岸線誘致と根岸湾埋立事業の全体像について、元市港湾局港湾整備部長の田中常義氏が収集した資料をもとに編纂したもの。事業当事者による一次史料にもとづいた記録で、なかでも漁業補償の問題については漁業関係者との折衝経緯が議事録をもとに詳細に記述されている。	○
◆3-6公害					
清水嘉治・猿田勝美他	『京浜公害地帯』	新評論	1971	川崎・鶴見地区を中心とする京浜工業地帯の公害問題を、被害の実態、産業と公害、自治体の対応、住民運動といった視点でまとめたもの。	○
横浜市立大学経済研究所	『京浜工業地帯公害年表』第1集(昭和20～29年)、第2集(昭和30～44年)、第3集(昭和45～47年)、第4集(昭和48年)、第5集(昭和49～50年)	横浜市立大学経済研究所	1975～1982	京浜工業地帯および神奈川県内の公害・環境破壊について、新聞記事を素材として年表形式で示した者。公害の分類には「基地公害」も。	○
助川信彦	『環境問題と自治体 横浜市における実験』	ゾーオン社	1991	横浜市公害センター所長・公害対策局長等を歴任した著者が、横浜市の公害対策の実践について当時執筆した論文をまとめたもの。	○
◆3-7社史					
横浜市中央電話局	『横浜の電話』	横浜市中央電話局	1962	横浜の電信電話事業の歴史をたどる。第2部に「横浜電話10年の歩み」を置き、1952年から1962年までの電話事業拡張の様子が詳細に記述される。	○
	『相鉄不動産七年史』	相鉄不動産	1962	横浜駅西口の開発を行った企業の社史。繁華街の形成の過程が詳細に記録されている。	×(横浜市立中央図書館あり)
日本鋼管株式会社六十年史編集委員会	『日本鋼管株式会社六十年史』	日本鋼管	1972	横浜市内に、造船や製鉄・鉄鋼などの工場を持ち、高度経済成長期の横浜市内の主要企業の一つであった。	○
日産自動車株式会社社史編集委員会	『日産自動車社史』	日産自動車	1975	1964～73年の日産自動車の歩みを詳説。前史に当たる『30年史』および続編もある。	○
白土秀次	『ホテル・ニューグランド50年史』	ホテル・ニューグランド	1977	居留地のグランドホテルから横浜のホテル史を記述、1952年の接收解除後については、ホテルを取り巻く環境の変化と経営について記述するが、比較的簡単な記述で終わっている。	○
新井清太郎商店	『新井清太郎商店九十年史』	新井清太郎商店	1979	貿易商。ミカンや百合根の輸出に特徴があったが、次第に雑貨の輸入の取扱が多くなった。	○
横浜銀行史編集委員会	『横浜銀行六十年史』	横浜銀行	1980	第二国立銀行(明治7年)と第七十四国立銀行(明治11年)として発足し、第一次大戦後の横浜興信銀行(大正9年)を経て、昭和32年に商号変更した横浜銀行に関する通史。合併した金融機関や支店の動向にも記述がなされており、神奈川県内の金融史としても読むことができる。末尾に資料編があり、多くの写真等も掲載されている。	○
日本鋼管株式会社七十年史編集委員会	『日本鋼管株式会社七十年史』	日本鋼管	1982	昭和40年代中頃に、いくつかに分かれていた製鉄・鉄鋼部門を扇島へ移転する計画に際し、関係の横浜市・川崎市・神奈川県から公害防止について、強く申し入れを行い、実行させた。	○

東京電力社史編集委員会	『東京電力三十年史』	東京電力	1983	1962年鶴見区に横浜火力発電所を設置、続いて、根岸湾埋立地に南横浜火力発電所を設置した。隣接する電源開発と同様に、横浜市と公害防止協定を結んだ。	○
30年史編集委員会	『電発30年史』	電源開発	1984	根岸湾埋立地に磯子火力発電所を設置。この際に横浜市と公害防止協定を結び、「横浜方式」の最初の例となった。	○
有隣堂八十年史編集委員会	『有隣堂八十年史』	有隣堂	1989	明治時代に創業した書店の社史、出版も手がける。昭和20年代末、接収解除され、その後ビルを建設。高度経済成長期には横浜駅西口などへ出店し、多店舗化した。また、ギャラリーや横浜に関する書籍の出版なども行っている。	○
横浜製作所100年史編さん委員会	『三菱重工横浜製作所百年史』	三菱重工業 横浜製作所	1992	横浜船渠時代から三菱重工業横浜造船所・横浜製作所に至る百年の歴史を、「通史」「経営管理」「生産・技術」に分けて詳述。資料編・年表等あり。	○
石川島播磨重工業株式会社総務総括部社史編纂担当	『石川島播磨重工業社史』沿革・資料編、技術・製品編	石川島播磨重工業	1992	造船や重機の製造業。根岸湾埋立地に工場を建設した。	○
横浜信用金庫金庫史編さん委員会	『横浜信用金庫70年史』	横浜信用金庫	1994	太平洋戦前期に設立されたいくつか信用組合を母体に、1951年信用金庫法により転換した。	○
東京電力株式会社	『関東の電気事業と東京電力』	東京電力	2002	1962年鶴見区に横浜火力発電所を設置、続いて、根岸湾埋立地に南横浜火力発電所を設置した。隣接する電源開発と同様に、横浜市と公害防止協定を結んだ。	○
「ホテル・ニューグランド八十年史」編集委員会	『ホテル・ニューグランド八十年史』	ホテル・ニューグランド	2008	50年史までの時代を概観し、その後の時代を主に記述する。高度経済成長期については、50年史も記述が少ないため、両書を併せても、外国人専用ホテルからの転身などの記述は少ない。	○
◆3-8農林水産業					
伊豆川浅吉	『神奈川県水産業協同組合十年史』	水産業協同組合育成強化対策神奈川県協議会	1962	第2部第2章で根岸湾埋立における屏風浦漁協の対応、漁業補償などを記述している。	○
〔横浜市〕総務局事務管理部統計課	『横浜市の農業』	〔横浜市〕総務局事務管理部統計課	1966～	国が5年毎に行っている農業センサスの横浜市分の結果報告。	○
市橋宏美	『記念史』	横浜市緑区恩田川沿岸土地改良区	1983	緑区恩田川沿岸の土地改良区の歴史。1964年に認可された。氾濫する恩田川改修のため土地を無償提供(神奈川方式)した者への救済などが特徴的。諸資料・統計を掲載する。	○
柴漁業協同組合史編集委員会	『蒼穹の下魚鱗耀きし地』	柴漁業協同組合	1990	金沢区の柴漁業協同組合の歴史。高度経済成長期に関しては、埋立反対運動や転業問題を記述。また、潜水漁やシャコ漁などについても記述している。	○
神奈川養鶏協会	『かながわ養鶏のあゆみ』	神奈川養鶏協会	1998	明治初期からの神奈川県における養鶏の歴史を記述。横浜市内は1949年横浜市養鶏農協が設立されるなど養鶏が盛んであった。しかし、都市化の中で中心的なグループが1957年横浜市から座間市へと移転している。	○
小林照夫	『巨大都市と漁業集落』	成山堂書店	1998	第10章高度経済成長期の横浜では、船混問題や港湾機能について概略し、第11章ウォーターフロントの開発と漁業補償問題では、戦前からの埋め立てによる漁業補償を概略し、昭和30年代からの埋立と漁業補償について記し、終章都市社会と漁業集落では、昭和40年代以降の変化に伴い、直売所や遊漁船など市民との関わりを記している。	○